皇學館 学園報 第26号

発行・編集
学校法人皇學館（総務課）　TEL0596・22・6308
伊勢学舎［法人本部・大学院・専攻科・文学部・教育学部・現代日本社会学部］
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704番地
TEL0596・22・0201㈹　FAX0596・27・1704
名張学舎［大学院・社会福祉学部］
〒518-0498 三重県名張市春日丘７番町１番地
TEL0595・61・3351㈹　FAX0595・61・3350
高等学校・中学校　三重県伊勢市楠部町138
【高校】〒516-8577　TEL0596・22・0205㈹
【中学】〒516-8588　TEL0596・23・1398㈹

新生活への期待抱き七九五名が入学

平成二十二年度 皇學館大学入学式

四月三日、平成二十二年度皇學館大学入学式が伊勢学舎記念講堂で行われた。今年、新設された現代日本社会学部に入学した九十八名をはじめ、文学部三七四名、教育学部二六四名ほか、大学院二十六名、専攻科三十一名など計七九五名の新入生が新生活をスタートさせた。

緊張感のある雰囲気の中、式が催行された。

日本人としての自覚を忘れずに

満開の桜が見守るなか、式典は十時から始まった。開式の辞、国家斉唱の後、厳粛な雰囲気のなかで、伴五十嗣郎学長が「賀陽宮邦憲王殿下令旨」を奉読。続く式辞では、この令旨が「建学の精神」を最も簡潔かつ的確に表明したものとして大切に継承されてきたことを伝えた。また国際化が進む現代社会のなかで正しく対応していくには、自分が日本人であるという自覚を確立することが第一に必要であると語り、「いずれの学科に属していても、世界に開かれた広い視野をもって勉学に努めると同時に、日本人にふさわしい学識と人格・識見を身につけることを忘れず努力してほしい」と述べた。また佐古一洌理事長は告辞のなかで、「学べば学ぶほど自分が何も知らなかったことに気づく。気づけば気づくほどまた学びたくなる」というアインシュタインの言葉を引用し、わが国の真髄に触れて、大いに学び、良友と語らい、心を練り、身体を鍛えるよう新入生を激励した。

神宮大宮司・鷹司氏による祝辞。

続く来賓からの祝辞では、神宮大宮司の鷹司尚武氏が挨拶。高度情報化・国際化が進むこれからの社会において現代日本社会学部の新設に高い期待を寄せられた。また新入生にも充実した学生生活を送るようメッセージが送られ、新入生は緊張した面持ちで拝聴した。

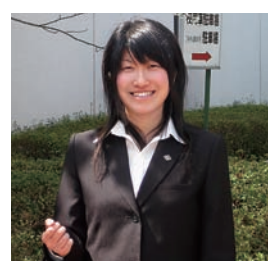
これらをうけ、新入生代表の六名が壇上に上がり、「建学の精神に思いを到し固く学則を守り将来国家有用の人材となるべく努力したい」と宣誓。

その後、閉式の辞でもって入学式は滞りなく終了した。

現代日本社会学部がスタート

平成二十二年度より、新設された現代日本社会学部。今年は、その期待すべき一期生の入学式であった。

松阪市から現代日本社会学部へ入学した深田浩子さんは、学部を選んだ理由を「自分が学びたいことにぴったりだったから」と語り、国際関係への進路を志望しているが、現代社会の問題にも興味があると述べた。また「これからの社会を良くしていけるよう、頑張って勉強したい」という力強い受け答えから、意識の高さがうかがえた。


教育学部に入学した中林さん。

また教員を目指して教育学部へ進んだ中林美和さんは「教員の採用率が高く、入学を決めた。授業や新しい出会いを期待している」と明るい表情で学生生活への意欲をみせた。

式終了後は、十一時から校歌指導および参拝作法の指導が行われた。その後、学生は保護者とともに移動し、外宮・内宮参拝へと向かった。

現代日本社会学部開設記念講演会「現代日本と広域観光」

中部を世界の観光交流中枢に

東海旅客鉄道相談役 須田寛氏が講演

「広域観光」や「国際観光」、「国民観光」といった新しい観光の方向性を熱く語る須田氏。

今年度から現代日本社会学部が新たに開設されたことを記念した講演会が四月二十二日、伊勢学舎にて行われた。講師として壇上に立ったのは東海旅客鉄道相談役で本学の特別招聘教授である須田寛氏。須田氏は産業に関する歴史や文化を対象とする「産業観光」を提唱した人物としても知られ、観光活動の推進に携わっている。今回の講演会では「現代日本と広域観光」をテーマに約一時間熱弁を振るった。

会の冒頭、須田氏は「観光は人や物の交流を通じて文化を創造発展させるものであり、地域の活性化に果たす役割は大きい」と講演。そして、観光の新たな展開として地域の特性を活かしつつも県や町といった行政区画単位の観光から脱皮し、観光地同士が連携する〝広域観光〟の推進を訴えた。最後に伊勢の地が数多くの参宮客を迎えてきた歴史に触れ、モデルコース（広域）を作成するなど伊勢志摩、ひいては中部、近畿がこれからの観光をリードする中枢地域になってほしいと締めくくった。

とても興味深い話ばかりだったと感想を語る松本さん（右）と藤本さん。

現代日本社会学部一年の松本大輝さんは「中国人観光客を呼び込むなど、〝広域〟の範囲がどんどん広がっていく話にスケールの大きさを感じた」と感想を話した。同一年の藤本紋さんは「地域の魅力と特性を活かすという話が印象に残った。地元に住む一人ひとりがもっと地域の魅力に敏感になって、観光資源を発掘できたらいい」と語っていた。

連載

2面　皇學館人物列伝⑦
足立巻一

3面　リレーエッセイ　私の学生時代
天花寺由紀子（学務課臨時職員）

7面　先輩、お元気ですか
水谷宗和氏（海上自衛隊護衛艦きりさめ艦長）

今号の注目記事

1面　大学で入学式を挙行
2面　新旧事務局長対談
3面　新任教職員紹介
4・5面　学生責任編集ページ　伊勢の海の玄関口 神社・大湊を歩く
6面　高校・中学　中高で入学式を挙行
7面　教職員人事
8面　カリキュラム「伝統の心と技」が充実

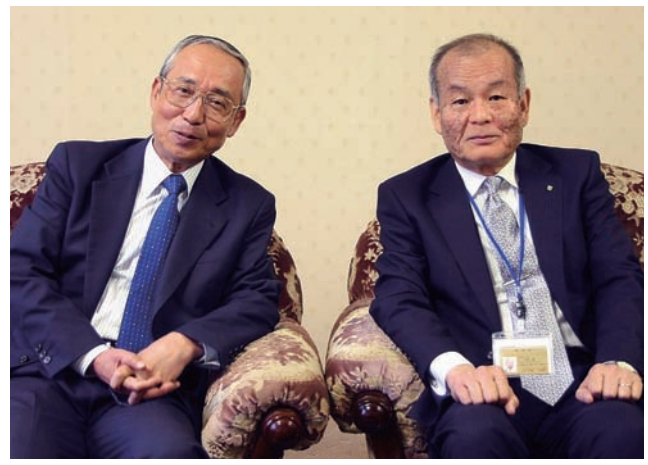
倉田山春秋

深緑が蘇る。薫風に包まれたキャンパス。五月十六日㈰、全国の父母を招いての萼の会。今年は教職員を加えて四〇〇人を超し、初めて一〇〇周年記念講堂が会場となった。萼は《うてな》ともいう。台の意からという、花の萼のことである。かつては父兄会と称した。昭和三十七年、本学再興と同時に全国の大学に先駆けて設立された▼子弟を花に、父兄を萼に譬えた三位一体の教育は、皇學館の底流に脈打ち、伝統として継承されている。記念館に設営された茶室日月庵では、茶道部が終日もてなしの心を披露した。千玄室大宗匠は、新刊の機関誌で、「私たち茶の道を志すものは単に知識の習得だけに偏重してはならないことを説いておられる。「一盌を心で味わう誠があってこそ、意が通い合う」という▼茶道は、知識よりも知恵を、形よりも誠を示唆している。鷗外作「寒山拾得」は、《盲目の尊敬》を揶揄し、文殊菩薩と普賢菩薩の化身である寒山と拾得の現し身を描いて、我々を啓発する。教育と学問には、早急な結論はない。信頼に基づく誠の営為を、未来を信じて永続させねばならない。

新旧事務局長対談

次の50年後を見据えて

八年間にわたり事務局長を務められた大竹辰也氏の勇退に伴い、西谷豊氏が後任に就いた。後継者に後を託す大竹氏の思い、またその後を引き継いだ西谷氏の意気込み、学園に対する両者の思いなどを伺った。



前事務局長の大竹氏（左）と新事務局長に就任した西谷氏。「様々な意見に真摯に耳を傾けながら、ステークホルダーとの連携をより強化していきたい」と意気込みを語った。

感度を研ぎ澄ます

――これまでの経験から、事務局に求められている役割は何だと思われますか。

大竹　事務局というのは教育と研究をサポートする大切なセクションです。そのためには、どんな状況の変化も見逃すまい、という姿勢で感度を研ぎ澄ますことが大事ですね。たとえば、数字は正直で、志願者の数や就職率は現況を如実に示すわけです。下げ幅はわずかだとしてもなぜそうなったのか、先手先手で考えていくことが必要ですね。その上で皇學館の発展につながる方策や案を経営陣・教授陣に提示するのが事務局の役割だと思っています。

西谷　大竹さんが以前「経営と教学の向いているところは一つだよ」とおっしゃった言葉が印象的ですね。たとえば、入学者を定員より多くとると教育の質が低下すると思われますが、収入のプラス分は教育や施設・設備の充実という形で還元されます。つまり、経営と教学は相反するものではなく、学園運営の両輪です。

大竹　教育研究そのものの成果が志願者獲得に結びついていくわけですからね。

――在任中、印象に残った仕事はありますか。

大竹　いろいろありますが、大学や高校の課外活動には目を向けました。野球にしろ吹奏楽にしろ、世間に評価される成功体験を生徒や学生には積んでほしかったし、皇學館らしさを打ち出したいという思いもありました。駅伝競走部の創部は単に強化指定クラブにするだけでなく、武田千代三郎第六代館長が駅伝の名付け親であり、神宮皇學館時代に駅伝部が存在していたことを考えたら、自ずと実行することが見えてきました。

ガバナンスの強化、透明化が必須

――新事務局長に期待することは。

大竹　誰でもそうですが、前任者の短所を改善するのは当然なことです。手段や方法は異なるとしても皇學館が果たす役割を再確認して、着実に改革を進めてほしいですね。

西谷　事務局の体制として現時点で最強のスタッフを大竹さんから引き継いだと感謝しています。この精鋭メンバーと一緒に、次の世代にバトンタッチするまで全力で職務に励みたいと思います。

大竹　私の在職中に名張学舎の撤退や定年の引き下げ、建物の耐震問題など、その時々の喫緊の課題には取り組んできたつもりです。金銭としては残らなくても、安全な教学の場という次の五十年の第一歩、再興百周年の始まりにふさわしい環境になると思いますよ。

西谷　たしかに、問題を先送りせず、きっちり取り組んできたからこそ次の事業にも取り掛かることができるわけで、見習うべきことだと思います。

大竹　課題を解決するにはガバナンスの強化、すなわち意思決定プロセスの透明化が必須です。事務局は、あくまで黒子です。財政面等の客観的裏づけを提示して、法人に意思決定を委ねる。決定されたら、即実行することが重要ですね。

皇學館の名にふさわしい行動を

――今後の構想をお聞かせください。

西谷　国際交流事業を積極的に展開していきたいですね。諸外国の学生や研究者に日本の文化を正確に理解してもらう機会を増やすことはとても重要だと考えます。

大竹　新しくスタートした現代日本社会学部はもとより、ほかの学部についても日本研究のメッカとなるよう頑張ってほしいですね。

――皇學館のさらなる発展に向け、一言お願いします。

西谷　外部の人材を積極的に取り入れていくこと、その上で、建学の精神を護り受け継いでいくことに留意したいと思います。長い歴史と伝統を持つ「皇學館」という看板を一人ひとりが背負っている自覚を持ち、例えば挨拶を交わすこと一つにしても、われわれ事務局の人間が率先して行動することが大切でしょう。

大竹　建学の精神の現代化とはどういうことかを、あらゆる場面で検証することが必要でしょうね。再興した昭和四十年前後の教育と今の状況はまったく違うわけですから、建学の精神をどうすれば現代に沿う具体的な行動、形として表せるのか、教職員一人ひとりが問題意識を持つことが大切だと思います。

二名が新規採用者に

平成二十二年度 科学研究費補助金

河野訓　神道学科教授

中村哲夫　教育学科教授

わが国の学術振興のため交付される「科学研究費補助金」（文部科学省・日本学術振興会所管）の平成二十二年度採用者に、河野訓神道学科教授と中村哲夫教育学科教授の二名が選ばれた。

河野教授の研究テーマは「宗教都市伊勢における神仏分離と寺院・神祠の景観変化に関する歴史的研究」。近世以前、伊勢、とりわけ山田地区には多数の寺院が存在していた。明治期の廃仏毀釈により建物の多くは消失したが、仏像や宝物の一部は商人の手によって他県に流出し今なお残存しているという。これらの調査や資料の分析から山田大火および廃仏毀釈の前後における伊勢の景観の変化をバーチャル画像化し、神仏混淆の状態から神仏分離を経て神宮を中心とする宗教都市となった経過を明らかにしたいと河野教授は語る。

研究には、民俗学・地理学・近代史などの教授陣も加わり、神仏分離というテーマを多角的に分析しているのも特筆すべき点だ。

中村教授の研究テーマは「一九三〇年代国際オリンピック委員会におけるオリンピックの政治的中立性の形成過程」。一九三〇年代は、三三年のドイツにおけるナチス政権誕生、三六年のベルリン五輪、四〇年に予定されていた東京五輪と代替地ヘルシンキ五輪の中止など、五輪と政治の関係が最も議論された時期。中村教授は、この時期の諸議論を調査・分析することで、国際オリンピック委員会（IOC）において五輪の政治的中立性がどのように形成されていったかを実証したい、と語る。当時の史料の調査・収集や、一九三〇年代を対象とした先行研究の分析を通じて、〝五輪と政治〟という現代にもなお議論となるテーマに取り組む。

皇學館 人物列伝 7

足立巻一

あだち　けんいち

盲目の国学者・本居春庭を研究
評伝文学の傑作『やちまた』を執筆

あだち　けんいち◆東京生まれ。小説家であり詩人。盲目の国学者・国語学者である本居春庭を描いた代表作『やちまた』は評伝文学の傑作とされる。神宮皇學館在学中から詩誌、歌誌などを手掛け、この頃に知った本居春庭の研究に没頭する。卒業後は高校、新聞社などに勤め、退職後は執筆活動に専念。児童詩誌『きりん』の創刊より編集に携わり、児童詩運動を終生の生業とした。一九三年～一九八五年。

時は流れ大正も、はや歴史の一齣に繰り込まれようとしている。大正生まれの人物列伝にその名を連ねる人の描写を、同世代の私が引き受けようとは夢想もしなかった。

いま足立巻一君の足跡を辿れば、あまりにも偉大な存在で、私などの出る幕ではない。せめて、その一斑なりとも紹介して、全貌は不朽の名著『やちまた』に譲りたい。

さて、学生時代の彼は詩歌を友とし、小説や随筆を試み、さては老荘の思想に憧れもしたが、神ながらの道には馴染めなかったようだ。ただ、酒井秀夫教授の文法概論は別だった。わけても、本居春庭には深く傾倒し、『詞の八衢』『詞の通路』を知るに及んでは、人生行路を変えんばかりだった。

彼は国文学を愛し神宮皇學館に入学したが、特に文法は数学のような論理美を持つ点で興味があった。その文法で用いられる動詞の活用の法則や名称が、既に百数十年も前に、盲目の国語学者によって、ほぼ決定していたのには驚嘆した。足立は教授の一言一句をも聞き漏らすまいと耳を澄ませた。「文法はあらゆる学問の中でも、最も孤独でさびしい、つつましい学問である」。その声は、まるで天の啓示のように聞こえた。

それ以来、神宮文庫に通う日が続いた。だが当時はここにさえ、春庭に関する資料は皆無に等しかった。関係地を訪ね、先学の教えを乞い、遍歴は四十数年にも及んだ。ようやく初稿の執筆を思い立ったのは、本居宣長記念館の設立が決まり、それに伴い本居家文書の精査が始まり、春庭にかかる資料も現れた昭和四十二年で、上梓はさらに七年後だった。

晩年の彼の温容は、まるでロイド眼鏡の布袋さんそっくり。文章は分かりやすく、思わせ振りや気取ったところのない自然体。それはまさに詩の世界だ。その集大成である『やちまた』こそは、かれ畢生の偉業だ。ぜひ、諸君の一読を薦めたい。

本科四十六回国漢科（昭和十二年）卒　小野田一馬

新任教職員紹介

❶出身・経歴等　❷趣味・特技等　❸座右の銘　❹一言メッセージ

現代日本社会学部長
宮川　泰夫

❶仙台市・東北大学法学部及び理学部
❷温泉旅行、合気道。
❸一期一会、超容通徹
❹現代日本の課題を的確にとらえ、皇學館大学の伝統的学風を活かして、学問的に探究をする喜びに浸っています。

大学院文学研究科教授
毛利　正守

❶岐阜県・皇學館大学大学院(第一期生)
❷スポーツ観戦
❸明鏡止水
❹研究者として、長年、経験してきたことを、授業を通してみなさんに伝えていきたいと思います。

教育学部教育学科教授
小孫　康平

❶筑波大学大学院教育研究科修士課程修了、東北学院大学大学院人間情報学研究科博士後期課程修了・博士(学術)
❷天文・演芸鑑賞・野球観戦
❸初志貫徹
❹教育と研究に、精一杯がんばります。

文学部教育学科教授
錦　かよ子

❶津市・愛知県立芸術大学音楽学部大学院（作曲専攻)修了
❷生け花　❸人生は終ってみればチャラ
❹驕ることなく、悲観することなく、自分を信じて今を一生懸命に生きましょう。

文学部教育学科准教授
有門　秀記

❶福岡県・三重大学大学院教育学専攻(修士)
❷音楽鑑賞・読書・家庭菜園
❸待て、而して希望せよ
❹現場での工夫を、学問的に整理し、発展させ、新しい発見を目指します。

教育学部教育学科准教授
渡邊　毅

❶名古屋市
❷手話が少し出来ます。
一輪車も何とか乗れます。

❸一世ノ智勇ヲ推倒シ、万古ノ心胸ヲ開拓ス
❹道徳教育を担当します。学生諸君と夢のある道徳の授業を考えていきたいと思っています。

社会福祉学部
社会福祉学科准教授
山本　智子

❶京都府・京都教育大学大学院(障害児教育)
❷夜会鑑賞・もの作り
❸脚下照顧
❹自然豊かで落ち着いた環境の中、特別支援教育について研鑽できることに感謝しています。

現代日本社会学部
現代日本社会学科准教授
岩崎　正弥

❶東京都・早稲田大学理工学部建築学科及び大学院　❸伝統文化の輝く、美しい日本の未来を、創造する。
❹京都より大和の神々のお導きにより伊勢の国に参りました。皇国の為に尽力申し上げます。

教育学部教育学科助手
藤村　京子

❶名古屋市立保育短期大学　❷紙芝居・絵本の読み聞かせ
❸継続は力なり
❹今までの経験をできるだけ多く伝えられるように努めていきたいと思います。

神道研究所助手
佐野　真人

❶静岡県・皇學館大学大学院博士後期課程満期退学　❷オペラ・バレエ・クラシック音楽等の鑑賞
❸明鏡止水・異体同心
❹これまで学んできた皇學館に奉職させていただき、感謝の念で一杯です。

神道博物館助手
太田　光俊

❶津市・大阪大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学　❷三重をあるく　三重を知り　三重で考える
❹地域の宗教・文化や織豊期の研究をしています。

学生部・大学事務部
学務課長
浅井　誠司

❶伊勢市
❷スポーツ観戦・釣り
❸謙虚
❹人と人との出会いを大切にし、一日も早く皇學館大学の職員に成れますよう精進いたします。

学生部・大学事務部
就職課課長
中井　良明

❶伊勢市
❷釣り・映画鑑賞
❸一期一会
❹建学の精神をしっかりと受け継いで参りたいと思います。

皇學館中学・高等学校
事務長
中尾　信一

❶三重県職員OBです。

学生部・大学事務部
学務課　**池山　幸志**

❶津市　❷野球
❸一日一生
❹皇學館の発展に貢献できるよう努力していきたいと思います。

貞明寮寮監
營田　友美

❶青森県
❷料理作り・花を愛で生けること
❸朝・夕　神棚にご挨拶
❹傍に居てくれるだけで癒される人と慕われる女性になりましょう。

学生部教職支援室
教職アドバイザー
上森　敏和

❶松阪市立第四小学校長
❷釣　❸一所懸命
❹若草萌ゆる…の倉田山にて奉職でき光栄な反面身が引き締る思いです。

❷映画・演劇鑑賞（特にミュージカルが好きです)　❸一期一会
❹若い皆さんからパワーをいただき、自分の糧にと思っています。

財務部管財課嘱託
川邊　成人

❶伊勢市・建築関係28年
❷ラジコン飛行機製作
❸人事を尽して天命を待つ　❹早く仕事を覚えて部署のみなさんの足を引っ張らないよう努力したいと思います。

女子柔道部が全国へ

創部以来、初の快挙

六月二十六日に東京・日本武道館で開催される全日本学生柔道優勝大会(団体戦）に女子柔道部(国文学科四年 小宮瑞希さん・教育学科二年 瀧野和美さん・同学科一年 北川ひとみさん・同学科一年 松本知浩さん)が出場する。

これは五月十六日に行われた東海学生柔道夏季優勝大会において団体三位の好成績を収め出場権を獲得したもので、主将の小宮さんは「それぞれが自分の役割を果たせば、結果は自ずと付いてくる」と自信を見せる。柔道部部長の増井節郎コミュニケーション学科教授は、「実力のある顔ぶれが揃い、女子柔道部史上最も強い。今後、全国で戦う足がかりとなるような実りある大会にしたい」と意気込みを語った。

左から松本さん、北川さん、瀧野さん、小宮さん。

リレーエッセイ　**私の学生時代**

倉田山の思い出

学務課(教育学科研究室)臨時職員
天花寺　由紀子
教育学科18期(平成8年卒)

学生さんに、「天花寺さんの卒業論文はどうでしたか?」という質問を受けることがあります。

何事も追い込まれないと動かない私は、資料集めだけはするものの筆の方は一向に進みませんでした。何とか提出できたのも、ゼミ生が十二月に企画してくれた卒論追い込み合宿でのお陰です。今のようにパソコンはなかったので全て手書きで行いました。書いては消し書いては消し……。既に完成し、先生の合格が出た学生は温泉を満喫できるのに、自分は右手にペンだこを作って原稿用紙に向かう。「あぁ、もっと早くからやっておけば。夏休みにあんなに時間があったのに」と強く後悔したことを覚えています。その反省が活かされ、今は早め早めに着手するようになったかと言えば、なかなか性格というものは変わらないようで、相変わらず提出物の締切間際に、バタバタ慌てている自分がいます。

研究旅行は総勢一三〇名の大所帯でした。行き先は神戸や北海道などいずれも国内で、スーツ姿でぞろぞろ並んで歩く私たちを見た地元の方に「どちらの企業の新人研修ですか?」と聞かれ、返答に困ったのを覚えています。現在の少人数でのゼミ旅行を羨ましく思いつつ、あの大人数での研究旅行も普段なかなか話さないような先生方やクラスメイトと思いがけず深い話ができ、寝食を共にすることにより新しい友人関係が築けるいい機会だったと思い返します。

教育学科の授業は一号館やその周辺で行われることが多かったように思います。施設的にはピカピカの四号館や二号館の方がいいのですが、なぜか一号館に入ると落ち着く、独特の雰囲気がそこにはありました。秋学期には新校舎が完成し、もう一号館での講義はなくなるようです。真新しい校舎や教具、機器などに期待はふくらむ反面、当時の授業を思い出すと、少し寂しい気持ちになります。

皇學館高校を卒業後、皇學館大学で大学生活を送り、大学を卒業した翌日から教育学科研究室で勤務。気がつけば長い時をこの倉田山で過ごしてきました。私の学生時代には十数名だった教育学科の先生方も、現在は二十四名に。学生数も倍増しました。戸惑うこともあると思いますが、これからも先生方や学生に刺激を受けながら、成長していければと思います。

大湊 おおみなと

●井坂家具

大湊港へつづく道路沿いにある手作り家具の店。離れのギャラリーには、店主の井坂益水さんが制作した作品がたくさん並んでいる。コップや皿、タンスをはじめ、木製のサックスやトランペット、自転車もあり、その精巧さには感嘆のためいきがもれるほど。井坂さんの気さくな人柄も魅力のひとつだ。

●大湊大仏

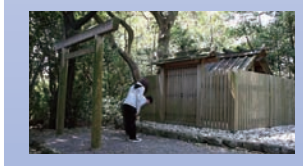
大湊墓地にある大きな石仏。地元では「おぼとけさん」と呼び親しまれている。東にあるのが釈迦如来、西が阿弥陀如来。元禄８年(1695)に伊豆の石材で江戸の石工が造ったと伝えられる。県内では最大の石仏だ。

●鷲ヶ浜

伊勢湾に面した遠浅の海岸。渡り鳥や水鳥が多く飛来し、夏はウミガメも産卵にやってくる。島である立地から日の出、夕日、月明かりが美しく、古歌にも多く歌われている。名前は、倭姫命が大湊に立ち寄ったとき、鷲取の翁が冷たい水をさしあげ、倭姫命がたいそう喜ばれて大湊の浜を「鷲取りの小浜」と名付けられたことに由来する。

●日保見山八幡宮

鷲ヶ浜のすぐ近くにある神社。まず、神社の正面にある大松に圧倒される。境内には、倭姫命と鷲取の翁の話に関わる「水饗神社」もまつられている。日保見山というのは、日和見山、または潮見山という意味で、船出の日和や潮のようすを見る山のことを指すそう。



●志宝屋神社

伊勢神宮125社のひとつ。祭神の「鹽土老翁」は塩業、海路の守護神。地元では、湊の明神さま、塩屋明神などと呼ばれ親しまれているほか、安産の神として参拝する人も多いとか。防波堤がぐるりとめぐるいかにも河口らしい風景の中にある。

●神宮貯木場(池)跡

大湊小学校の西側道路から南側水路に囲まれたところは、もともと神宮貯木池で、昭和20年代まで神宮の遷宮御用材の貯木池として使われていた。御造営材は、木曽から筏でここに運ばれ、内宮へは五十鈴川を、外宮へは宮川をそれぞれ上って運ばれていたという。

神社 かみやしろ

●神社港・海の駅

神社港周辺の情報を得るならここへ。NPO法人「神社みなとまち再生グループ」の拠点事務所としてスタッフが常駐しており、いろいろな話を聞くことができる。前には桟橋やデッキ、かつての船参宮ルートを巡る和船「みずき」の発着場が広がる。

●島重

神社港の古い町並みの中にある、創業56年の和菓子店。独創的なアイデアを取り入れた創作和菓子に定評がある。港町にちなんだ「伊勢夢街道」は、バターが効いた生地でミルク風味の黄身餡を包み、アクセントにブルーベリーのジャムが入っている。餡の甘みとブルーベリーの酸味とのバランスが絶妙で、神社港のお土産にぴったりだ。５個入り788円〜。

ブルーベリーの青色は、伊勢湾の海をイメージしている。

●御食神社

伊勢神宮の125社のひとつで祭神は「水戸御饗都神」。古来より港に揚がった海産物を神宮に調進してきた御饌の神である。「水戸」というのは水の入り込んでいる港のことを指すという。船形の手水鉢がユニークだ。

●辰の井

御食神社内の境内にある井戸。産土神、火除けの神として地元の方々に尊ばれている。１月の初辰の日には、初水が参拝者に授与され、水をもらいに来る人でにぎわう。その水を家の周りにまくと火災除けになると信じられている。

●廣池千九郎「誠の体験の地」

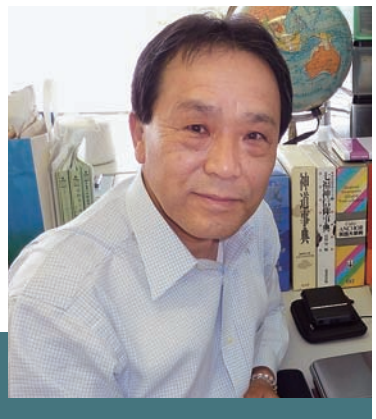
神社港は麗澤大学・モラロジー研究所の創立者である廣池千九郎ゆかりの地でもある。明治43年当時、神宮皇學館教授であった廣池氏は、二見町今一色で病に苦しむ中年女性のもとへ神社港から幾度となく船で通い、見舞ったという。後年、廣池は「思わず知らず、わが身を捨ててもこの人を助けたいと思った心が、誠の心であった」と述べている。現在、海の駅前の桟橋にこのことを記した看板が設置されている。

●みなとまち館

港町の歴史を伝える博物館。多彩な資料や民具、船具などから往時の繁栄が感じられる。屋上の展望デッキは神社港の町並みや伊勢湾を見晴らせる絶好のビューポイント!

「伊勢まちかど博物館」に登録されている。入館無料。

クローズアップゼミ 研究室探訪 7



社会福祉学部長
櫻井治男ゼミ

他者に耳を傾ける大切さ

研究室といえば、私はこれまで６回移動している。本学が100周年を迎えた頃の建設ラッシュと国文学科、神道研究所、神道学科、社会福祉学科という所属の変転に起因する。ゼミとして卒業研究の指導をしたのは神道学科の10年間で、あとは社会福祉学科１年生の教養ゼミと大学院神道学・社会福祉学専攻の修論指導が主で、学生の皆さんとは馴染みが薄いかもしれない。

研究室で大切にしているものは、調査カードである。地域神社の調査研究を通して神道を理解するスタイルを進めると、聞き書きした内容を整理・保管する必要が生じてくる。現在ではパソコン利用でデータベース化しやすくなったが、それまでは京大式カードと称されたものを活用してきた。本学へ入学以降、先生方は折にふれメモすることを勧められた。これはその後も、そして今も有難い躾であると思っている。

私の研究は、地域といっても一般にムラと呼ばれてきた社会の構造を見つめ、人々の生活と宗教文化の姿を、社会変動とのかかわりで解明することが一貫したテーマであるが、手づくりの調査資料が重きをなす。特に焦点を当ててきたのが明治末期に政府の施策として行なわれた神社合併と祭礼の変化、その後の神社復祀の状況である。学部を移籍してからは、地域＝福祉＝文化の関係に関心を寄せてきた。調査で大事なことはコミュニケーションである。お酒を酌み交わしながら、相槌をうち、メモをとる。自身の籠もる枠から離れて他者に耳を傾けることは、異文化理解と〈共在〉社会の構築に大切なことといえよう。研究のガラパゴス化を避けるためにも。

学生責任編集ページ　学生記者募集!……興味のある人は総務課まで!　KODAISM

伊勢の海の玄関口 神社（かみやしろ）・大湊（おおみなと）を歩く

伊勢市の北東部。市内を流れる宮川、五十鈴川、勢田川が出合う河口に広がる神社・大湊地区は、伊勢の海の玄関口として古くから栄えていました。おびただしい数の船参宮客を迎えてきた神社、造船業が発達した大湊……水運とともに発展してきた２つのまちを歩きながら、海から見た伊勢の歴史をたどります。

〈神社港〉という町名が物語る往時の繁栄

市内を流れる宮川、五十鈴川、勢田川の３川が出合う河口は、古くから良港として多くの船が出入りしていた。その１つが神社港だ。神宮に近い地の利から参宮客の上陸港に。鐘や太鼓で伊勢音頭を囃しながら入港して来たので、伊勢っ子は彼らを〝どんどこさん〟と呼んでもてなしたという。「町の名が神社町ではなく神社港なのは、港として大変栄えていた証拠」と語るのは、NPO法人神社みなとまち再生グループの代表・中村清さんだ。昭和８年の統計によると貨物船や漁船など出入りした船舶は約２万6000隻。周辺には船関係の店や宿、遊郭、芝居小屋までがあり、それは賑やかだったとか。中村さんいわく「近所に銭湯がいくつかあって家に風呂を作る必要がなかったですからな。役所に銀行、何でも揃った便利なところでしたわ」。

港町としての誇りを取り戻す動き

界隈を歩くと、往時の面影を留めるものは創業120年の料理旅館「柏屋」のみ。しかし、中村さんたちをはじめ地元では港町としての誇りが埋もれてしまうことへの危機感から６年前に前述のNPOを立ち上げ、海の駅の設置や和船「みずき」の就航、おんべ鯛奉納行事の継続などに尽力してこられた。船参宮を支えてきた〈港〉としてのアイデンティティーが次世代に守り継がれていくことを願う。　**澤　友美**（教育学科３年）

造船が栄えた江戸時代、大湊では漁業に従事する者はほとんどなく、工業都市として名を馳せた。

数々の名船を生みだした大湊の造船技術

神社から河口へ約２キロ。伊勢湾に面した三角州に大湊はある。宮川の源は国内屈指の多雨地域といわれる大台山系。杉や檜などの造船用材が豊富で、水流にのって河口の大湊まで運ぶことが容易であったことから造船業が発達したそうだ。豊臣秀吉が朝鮮出兵する際の旗艦「日本丸」や伊能忠敬の測量船、白瀬中尉の南極探検船など日本の歴史に登場する数々の名船がここで造られている。

神宮とも深い縁

現在、大湊小学校の西側道路から南側水路に囲まれたところは昭和20年代まで神宮の貯木場だった。ご造営にこの地の船大工が関わるなど神宮と縁は深く、お木曳の陸曳・川曳ともに許されている特別な地域だ。そんな町の歴史を後世に伝えたいと、地域住民が主体となって郷土歴史研究会を立ち上げ、古文書や史料を読み解く作業が行われている。「大湊の家にかけられている注連縄は独特の結び方がされているんですよ」と教えてくれたのは、今回ガイドをしてくださった長屋好子さんと山口あい子さん。お木曳車の縛り方も大湊独自の伝統的な技術が用いられているといい、誇らしげに語る２人の表情からは郷土を愛する心が伝わってくる。何気なく通り過ぎていた風景も、調べてみると多くの人の思いや歴史、秘話が詰まっていると感じた１日だった。　**山田拓也**（神道学科３年）

現在の神社港の様子。万治年間（1658~61）に開かれたといわれる神社港は、お伊勢参りに沸いた江戸から伊勢湾に定期船が行き来した明治にかけ、黄金時代を迎えた。しかし、明治30年（1897）に参宮鉄道が引かれると、やがて衰退していく。

神宮貯木場（阿場池）跡地の小学校前で長屋さん（左端）、山口さん（右端）と記念撮影。

第四十八期生三三二人が入学

平成二十二年度　皇學館高校入学式

四月八日、時折小雨の混じるあいにくの天気になったが、皇學館高校第四十八回入学式が執り行われた。満開の桜の華やかさとまばゆいばかりの新入生の笑顔もあって、会場は厳粛な雰囲気の中にもどことなく陽気さを感じさせる雰囲気。そうした中、式は例年通り国歌斉唱、令旨奉読と滞りなく進んだ。次に中村貴史校長が新一年生および保護者の方々に向かって祝辞を述べるとともに、「正しい日本人としての生き方を身につけ、この日本社会に、ひいては世界に貢献をし得る人材となって欲しい」と令旨の顕すところ・本学の教育方針などに触れた。また、「人間形成の上で大切なこの三年間で正確な知識と正しい判断力を見につけ、学校のモットーである言葉〈清明正直〉に表されているように、日々を清く明るく正しく、率直に送って欲しい」とその期待を述べた。そして、最後に夏目漱石の名作『三四郎』の中から「人間の脳こそ世界で一番広い」旨の内容を引用し、「人間の可能性は無限です。諸君は三年間でこの可能性をどんどん広げていって欲しい」と言葉を贈った。

各方面からの祝辞、祝電披露の後、新入生三三二名を代表して、総代・向原玲奈さんが「建学の精神に基づき、学業に専念し、皇學館高等学校生徒として誇りを持ち自覚ある行動をなす」ことを宣誓し、式は無事終了した。

新入生総代・向原さんが宣誓。

式後、新一年生は担任に引率され、やや緊張した面持ちで各自の教室へと向かった。いよいよ高校生としての生活がスタートする期待と少しばかりの不安が入り混じる中、保護者と共に教室に入った新一年生たちは早速担任の先生方から事務的な手続きの説明に加え、皇學館高校生徒としてのあり方、高校生活を送っていく上での心構えなどの諸注意を受け、これから始まる高校生としての生活に向け、自覚を新たにしていた。

新一年生が初めての神宮正式参拝

神宮参拝

四月十三日、前日の春の嵐を思わせる激しい雨とはうって変わった晴天のもと、皇學館高校新一年生による神宮参拝が実施された。出発前に正式参拝の作法―再拝・二拍手・一拝―の説明を受けた生徒たちはしばらく練習をした後、全員がバスで内宮へと移動。

初めての神宮御垣内参拝にやや緊張した面持ちをしつつ、また架け替えられて日の浅い宇治橋を渡り、五十鈴川で身を清めたあと、正殿での参拝へと向かった。

学生たちは玉砂利を踏みしめるザクザクという音とともに整然と列をなして移動。正殿前の石段を上がり、整列をする頃には初体験となるこの様な形での参拝に全員の間に緊張した雰囲気が漂っていた。そして、参拝を無事に終えると、全員がどこか不思議そうな、しかし、清々しい表情を見せた。その後、生徒たちは荒祭宮を参拝した後、往路同様バスにて学校に戻り、初めての神宮正式参拝は無事に終了した。

玉砂利を踏みしめ整然と。

まず五十鈴川で身を清め。

真新しい宇治橋を渡る。

荒祭宮の参拝を終えてホッ。

春の嵐の中、遠足を実施

平成二十二年度　春季遠足

季節はずれの寒さと嵐に見舞われた四月二十七日、生徒たちの最も楽しみにしている学校行事の一つである遠足が実施された。

あいにくの悪天候ではあったが予定通り、一年生は平等院を中心とした京都・宇治方面、二年生は長島スパーランドへ、三年生は合格祈願をかねて北野天満宮を中心とした京都市内散策へと向かった。特に三年生にとっては高校生活最後の遠足になった。北野天満宮では、半年後に控える受験への若干の不安と、高校生活もいよいよ最終年だというやや複雑な感情に包まれたようであったが、グループ行動する頃には高校生活最高の思い出を作ろうと、それぞれが心ゆくまで雨の京都散策を楽しんでいた。

【写真】北野天満宮での合格祈願（三年生）。

皇高NEWS

入学宣誓する中村君。

54名が入学

平成22年度　皇學館中学校入学式

四月七日に第三十二回入学式が行われた。新入生が真新しい大きな制服に身を包み、緊張した面持ちでセミナーホールまで来ると、校友会の生徒から「ご入学おめでとうございます」の言葉と一緒に名札を受け取った。少し緊張がとけた生徒たちはゆっくり席についた。

式典では、国歌斉唱、賀陽宮邦憲王殿下令旨奉読に続き、担任に一人一人の名前が呼ばれると、元気よく返事し起立した。中村貴史校長から新入生五十四名の入学が許可された後、学校長式辞、理事長告辞、保護者会長祝辞と続いた。

在校生代表として総務副委員長の園部拓くん(三B)が歓迎の言葉を述べ、入学宣誓を中村光希くん(一A)が堂々と行い、立派に読み上げた。その後、校歌斉唱の後、本校生徒になったという誇りを持ち、ホールを退場した。初めての学級指導では、中学生になった自覚を持って担任の先生の話をしっかり聞いていた。

皇中NEWS

学年それぞれに親睦を深める

平成二十二年度　春季遠足

五月十三日に春季遠足が実施された。天候にも恵まれ、学年別で親睦を深めた。

一年生は志摩自然学校で、シーカヤック体験をした。二人がペアになり、自然学校の先生方にパドルの持ち方や漕ぎ方など教えて頂き、全員上手に漕ぐことができた。少し練習した後は無人島に行き散策する予定であったが、強風のため中止となった。しかし生徒は楽しかったと満面の笑みで活動していた。

二年生は伊賀上野公園に行き、上野城の見学をし、忍者屋敷では忍者の方が忍びの場所や隠れ方を見せてくれるなど、めずらしい体験をすることができた。昼食は公園で食べ、自由時間を活動的に過ごした。

三年生はブルーメの丘でウインナー作りを体験した。四人一組で協力して楽しく取り組むことができた。自由散策では、魚釣り、パターゴルフ、変形自転車、ゴーカート、芝すべり、アーチェリーなどを楽しんだ。

どの学年も充実した一日を過ごすことができた。

自由散策にて（２年生）。

ウインナー作り（３年生）。

シーカヤック体験（１年生）。

◆◆創立三〇周年・再興五十周年記念事業◆◆皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業　寄付者芳名

学校法人皇學館の周年記念事業募金につきまして、ご協力いただいた方々に心より厚く御礼申し上げると同時に芳名を掲載させていただきます。掲載は四月三十日までの到着分とさせていただきます。

宗教界（神社界）

滋賀県
五十万円［二十万円増額］
日吉大社様
（大津市坂本）

館友

愛知県
十万円　武田　直樹様

大阪府
五万円　大西　正文様

弯の会（保護者の会）

文学部神道学科
三万円　天岡　秀雄様

企業

三重県
三十万円［二十五万円増額］
㈱日精警備保障様

本法人関係

十万円［五万円増額］
山田　茂様
六万円　有門　秀記様
五万円　藤村　京子様
三万円　錦　かよ子様

◆◆◆

同窓会会員

三重県
五万円［四万円増額］
山路　太一様
（21年度 中高後援会会長）
一万円　西口　静子様

後援会賛助会員

三重県
四万円　寺田　直喜様
三万円　藤村　京子様
一万円　有門　秀記様

本法人関係

皇學館高等学校創立50周年・皇學館中学校創立35周年記念事業寄付金進捗状況　平成22年4月30日現在

区　分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	2	150,000	150,000
企　業	40	4,090,000	4,000,000
一　般（旧教職員・篤志家等）	15	425,000	425,000
同窓会会員	127	6,603,000	6,603,000
後援会賛助会員	54	910,000	910,000
本法人関係	125	3,685,000	3,585,000
合　計	363	15,863,000	15,673,000

創立130周年・再興50周年記念事業寄付金進捗状況　平成22年4月30日現在

区　分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	634	776,847,000	765,077,000
館　友	718	78,894,000	75,519,000
篤志家	44	31,805,000	31,685,000
弯の会	1,894	82,686,000	82,686,000
企　業	103	62,235,000	60,895,000
本法人関係	251	57,852,000	57,512,000
合　計	3,644	1,090,319,000	1,073,374,000

OB・OG訪問

先輩、お元気ですか

水谷　宗和　氏

海上自衛隊護衛艦きりさめ艦長

国文学科第十六期（昭和五十六年三月）卒◆海上幕僚監部情報課、情報群司令部、護衛艦ちくま艦長を経て現職。特措法給油活動、リムパック、遠洋練習航海等各種活動に参加。

大学では日本の伝統等を学ぶことを通じて物事の本質を見出すことと「思いやり」の心を学びました。卒業後、外から日本について考えてみたいとの想いから海上自衛隊に入隊しました。海上自衛隊は、勝海舟と坂本龍馬が礎を築き、明治以降坂の上の雲を見続けた帝国海軍の伝統を受け継いでいます。現在は、インド洋以西の諸活動、国際的な共同訓練、遠洋練習航海や通常の訓練等を通じ四万二千人という日本航空より少ない人数で世界の海に広がる我が国の国益を護る任務に就いています。遥か洋上での活動は艦艇部隊と燃料、食料の補給や修理等後方支援とのパッケージとなりますが、日頃の訓練等を通じた蓄積や帝国海軍以来のノウハウもあり、急遽ソマリアに行けと言われても驚くほどに淡々と任務をこなしています。

海外の活動で多くの国の人々と交流する機会を得ましたが、学生時代に日本について学んだおかげで相互の歴史等の違いについて理解を深める事ができたと同時に、日本に生まれ育ったことの誇りを感じました。皆がお互いに相手を思いやり、気配りすることで喧嘩することもなくなるでしょう。現実はドロドロして一筋縄ではいきませんが国家間も基本は同じではないかと思います。

紀元を遡ること六六〇年と言われる日本の長い歴史に誇りを持ち愛することが、世界につながる多様なステージで活動する礎になると実感しています。

教職員人事

（　）内は旧職名

大学

退職　平成22年3月31日付
文学部教授　安江　和宣
文学部教授　渡辺　寛
文学部教授　島原　泰雄
文学部教授　川添　裕

事務局財務部管財課課長　中川　正幸
社会福祉学部事務部管理課課長　上村　正代
学生部・大学事務部就職課課長　堀畑　利治
学生部・大学事務部学務課主任　藤井　洋子
学生部入学試験課係長　中川　紀子
大学事務部学務課寮長　笠井三重子
学生部教職支援室書記　糀谷　敦子
採用　平成22年4月1日付
大学院文学研究科教授　毛利　正守
文学部教授　錦　かよ子
文学部准教授　有門　秀記

文学部教授　織田　揮準
文学部教授　市川　千秋
文学部教授　西山嘉代子
大学院文学研究科教授　蘭田　稔
教育学部教授　大串兎紀夫
社会福祉学部教授　太田　正己
社会福祉学部准教授　岩﨑　利彦
神道研究所教授　牟禮　仁
佐川記念神道博物館助手　石川　達也
事務局長　大竹　辰也
法人本部監査室室長　山田　茂
事務局学長室部長　中北　賢治

教育学部教授　小孫　康平
教育学部准教授　渡邉　毅
教育学部助手　藤村　京子
社会福祉学部准教授　山本　智子
現代日本社会学部教授　宮川　泰夫
期限／平成25年3月31日
現代日本社会学部准教授　岩崎　正弥
現代日本社会学部　特別招聘教授　須田　寛
期限／平成23年3月31日
特別招聘教授　植芝　守央
期限／平成23年3月31日
現代日本社会学部　神道研究所助手　佐野　真人
学生部教職支援室教職アドバイザー　上森　敏和
期限／平成23年3月31日
佐川記念神道博物館助手　太田　光俊
学生部・大学事務部学務課課長（学生担当）　浅井　誠司
学生部・大学事務部就職課課長　中井　良明
学生部・大学事務部学務課書記補　池山　幸志
期限／平成23年3月31日
大学事務部学務課技術嘱託　佐々木秀子
期限／平成23年3月31日
法人本部館史編纂室室長　渡辺　寛
期限／平成23年3月31日
再任用　文学部教授　市川　千秋
期限／平成23年3月31日
法人本部監査室室長　中北　賢治
期限／平成23年3月31日
事務局財務部管財課課長　中川　正幸
期限／平成23年3月31日
学生部入学試験課事務嘱託　中川　紀子
期限／平成23年3月31日

昇格　平成22年4月1日付
社会福祉学部教授　鵜沼　憲晴
〔社会福祉学部准教授〕
佐川記念神道博物館教授　岡田　芳幸
〔佐川記念神道博物館准教授〕
文学部教授　小木曽一之
〔文学部准教授〕
文学部教授　田浦　雅徳
〔文学部准教授〕
文学部教授　田口　鉄久
〔文学部准教授〕
社会福祉学部教授　張　磊
〔社会福祉学部准教授〕
文学部教授　吉田　直樹
〔文学部准教授〕
社会福祉学部准教授　板井　正斉
〔社会福祉学部講師〕
史料編纂所准教授　遠藤　慶太
〔史料編纂所講師〕
事務局長　西谷　豊
〔事務局次長〕
事務局学長室課長　橋本　久
〔事務局学長室課長補佐〕
法人本部総務部人事課課長心得　山邉　政彦
〔法人本部総務部人事課係長〕
事務局財務部管財課課長補佐　石橋　弘考
〔事務局財務部管財課主任〕
学生部・大学事務部就職課課長補佐　大橋　昌一
〔学生部・大学事務部就職課係長〕
学生部入学試験課課長補佐　小瀬古　学
〔学生部入学試験課係長〕
配置換　平成22年4月1日付
文学部教授　岡田　登
〔史料編纂所教授〕
現代日本社会学部教授　筒井　琢磨
〔社会福祉学部教授〕
現代日本社会学部教授　新田　均
〔文学部教授〕
現代日本社会学部教授　橋本　雅之
〔社会福祉学部教授〕

現代日本社会学部教授　山路　克文
〔社会福祉学部教授〕
事務局総務部部長　堀井　史仁
〔大学事務部部長〕
職名変更　学生部教職支援室教職アドバイザー　中西　正嗣
〔学生部教職支援室事務嘱託〕
期限／平成23年3月31日

高校

退職　教頭　本間　一誠
教諭　森田二三生
教諭　小林　裕八
教諭　坂井　修司
教諭　田中　久志
教諭　森田　直美
教諭　東　博美
養護助教諭　山本あす美
常勤講師　蒔田　幸代
常勤講師　吉村　有史
学校事務部学校事務室　事務長　近藤　卓二
学校事務部学校事務室　事務嘱託　今西　澄子
採用　常勤講師　石本　豪希
期限／平成23年3月31日
常勤講師　上野　祐介
期限／平成23年3月31日
常勤講師　葛山　夕華
期限／平成23年3月31日
常勤講師　河俣　毅
期限／平成23年3月31日
常勤講師　熊﨑　由衣
期限／平成23年3月31日
常勤講師　田中　克征
期限／平成23年3月31日
常勤講師　馬場　裕一
期限／平成23年3月31日
常勤講師　山﨑　陽祐
期限／平成23年3月31日
皇學館高等学校養護助教諭　西井　理紗
学校事務部学校事務室　カウンセラー　西　良孝
期限／平成23年3月31日

学校事務部学校事務室　事務長　中尾　信一
期限／平成23年3月31日
学校事務部学校事務室　事務嘱託　小林　裕八
期限／平成23年3月31日
昇格　教頭　平賀　秀忠
〔教諭〕
期限／平成24年3月31日
教諭　黒田　大樹
〔常勤講師〕
教諭　阪江　萌実
〔常勤講師〕
教諭　福西麻由子
〔常勤講師〕
教諭　松本　直之
〔常勤講師〕
教諭　芳村　祐帆
〔常勤講師〕
重任　校長［兼中学校長］　中村　貴史
期限／平成24年3月31日
教頭　多田　真二
期限／平成24年3月31日
配置換　高等学校教諭　中川　隆弘
〔中学校教諭〕
高等学校常勤講師　花井　和美
〔中学校常勤講師〕

中学

退職　教頭　松本　裕人
教諭　伊藤　文廣
採用　常勤講師　田中　秀幸
期限／平成23年3月31日
常勤講師　服部　篤志
期限／平成23年3月31日
昇格　教頭　服部　円美
〔教諭〕
期限／平成24年3月31日
教諭　元永　恵子
〔常勤講師〕
配置換　中学校教諭　安道　里巳
〔高等学校教諭〕

2カ月イベント情報

6月

12(土) 月例文化講座 伊勢学舎
持続天皇の伊勢行幸と第一回式年遷宮
◆岡田登 国史学科教授

週末あそび塾 名張学舎
竹で基地を作ろう! スター☆ドームに挑戦
◆叶俊文 社会福祉学科教授

19(土) 史料編纂所夏セミナー① 伊勢学舎
中世文書を読む ◆多田實道 国史学科講師

月例文化講座 名張学舎
これからの特別支援学校 —センター的役割としての地域支援— ◆酒井研作 社会福祉学科助教

23(水) ちょっとちょっと講義 まちなか研究室事務室
ケアプランを作成してみましょう
◆野尻京子 社会福祉学科准教授

24(木) 名張の地域文化を語る会 まちなか研究室事務室
「木と名張文化」
◆伊井野雄二 氏〔NPO法人赤目の里山を育てる会理事〕

25(金) 神道研究所公開学術講演会 伊勢学舎
近世陰陽道と暦
◆林淳 愛知学院大学文学部宗教文化学科教授

26(土) 神道博物館教養講座 神道博物館(伊勢学舎)
太宰府天満宮の祭り —その成立と変遷—
◆太宰府天満宮 禰宜　味酒安則 氏

7月

3(土) 週末あそび塾 名張学舎
あそびの丘 ◆叶俊文 社会福祉学科教授

10(土) 月例文化講座 伊勢学舎
鎌倉時代の遷宮 ◆多田實道 国史学科講師

みえアカデミックセミナー 三重県生涯学習センター
聖徳太子と公務員 ◆新田均 現代日本社会学科教授
福祉と経済「子ども手当」について考える
◆山路克文 現代日本社会学科教授

17(土) 史料編纂所夏セミナー② 伊勢学舎
中世文書を読む ◆多田實道 国史学科講師

17(土)~19(祝) 週末あそび塾 名張学舎
名張学舎でキャンプをしよう
◆叶俊文 社会福祉学科教授

21(水) 神道博物館夏休み親子教室 第1回 伊勢和紙館(大豊和紙工業㈱)
手すき和紙で折り染めのうちわをつくろう
◆伊勢和紙館(大豊和紙工業㈱)スタッフ

22(木) 名張の地域文化を語る会 まちなか研究室事務室
「火と名張文化 —名張の大火と愛宕さん—」
◆山口浩司 氏〔名張市史編さん室〕

24(土) 月例文化講座 名張学舎
超高齢社会とクルマの役割
◆笠原正嗣 社会福祉学科准教授

25(日) 史料編纂所 第18回公開講座 伊勢学舎
日本書記・古事記の世界 ◆岡田登 国史学科教授・荊木美行 史料編纂所教授・遠藤慶太 史料編纂所准教授

神道博物館夏休み親子教室 第2回 伊勢和紙館(大豊和紙工業㈱)
手すき和紙で折り染めのうちわをつくろう
◆伊勢和紙館(大豊和紙工業㈱)スタッフ

28(水) ちょっとちょっと講義 まちなか研究室事務室
教育における「格差」 ◆酒井研作 社会福祉学科助教

イベントの時間・申込方法等のお問合せは各学舎まで
伊勢学舎 ☎0596・22・0201(代)　名張学舎 ☎0595・61・3351(代)

編集後記

◆学園報をリニューアルして一年。多数のお便りとお礼状をいただきました。この場をお借りして、御礼申し上げます。◆新緑から梅雨の季節へ。紫陽花の開花にやぶ蚊の襲来…。倉田山の季節の移り変わりを日々実感しています。◆今春よりスタートした女子プロ野球。開幕から五連敗していた京都アストドリームスの歴史的初白星は、本学出身の大倉三佳投手の完封勝利によってもたらされました。チームの主将も務める大倉さんの活躍に今後も期待です!【総務課】

一流の布陣で一流の教育を

カリキュラム「伝統の心と技」

熱心に指導にあたる講師、教授陣(上・植芝特別招聘教授、下・水戸特別講師)。

日本文化の素晴らしさを体現できる人材育成をめざし、本学が平成二十年度入学生からスタートさせた共通カリキュラム「伝統の心と技」が三年目に入り、ますます充実した教育内容となっている。特筆すべきは一流の講師、教授陣だ。たとえば、「武道」の担当教員のひとり・植芝守央氏は合気道の開祖である植芝盛平氏の孫にあたり現合気道道主。文武両道をはじめとする本学の教育方針に深い理解を示し、稽古を通して心身の鍛練と人材育成に取り組んでくださっている。「能」の指導者は能楽師の高林白牛口二氏と観世喜正氏。日本を代表する伝統芸能である能楽(能)を学ぶことで、若い世代にも古典芸能を身近なものとして感じ取ってほしい、と意気込みを語る。ほか、㈱茶道裏千家淡交会参事を務める淺沼宗博氏、落語家で本学の卒業生でもある三遊亭栄楽氏、日本マナー・プロトコール協会の堀田明美氏など、様々な顔触れである。

「茶道」を受講していた神道学科一年の本田拓哉さんは「神職をめざしているので、正座など正しい所作を身に付けたい」と選択した理由を明かす。教育学科一年の辻岡美紀さんは「母が茶道をしていたので、わたしもやってみたいと思った。先生が丁寧に教えてくださったので分かりやすかった」と感想を話していた。「囲碁」を選んだ神道学科一年の佐々木美紗さんは「漫画の『ヒカルの碁』を読んでいて、ルールなどをきちんと知りたいと思った」と現代の若者らしい動機を語り、この日は特別に日本棋院棋士の水戸夕香里女流三段が講師として招かれていたこともあって「現役のプロの方に教えてもらえて光栄です」と感動した様子だった。

伊勢学舎の学食が充実

「い〜菜食堂」オープン

四月九日、倉陵会館の二階にオープンした「い〜菜食堂」。さっそく、女子学生を中心に人気を集めている。運営する㈲キャリオンのスタッフは全員〝ママ〟。もとは幼稚園児の母親らがおいしく安全な弁当を——との思いで集まった集団だ。度会町の契約農家から仕入れる米や茶、自然農法で育てられた鶏の卵など、味・栄養価ともによく、地産地消の安心素材を取り入れているのが特徴だ。また学生たちが毎日でも利用できるようにと低価格に抑え、メニューにどこか〝ひとひねり〟効かせているのも人気の理由。たとえばある日の日替わり定食(四百円)のメインは「ミルフィーユカツ」。薄切り豚肉の間にチーズやインゲンなどが層状に挟んであり、サクサクの衣と色々入った具の食感が楽しい。店長の根津由美さんは「一人暮らしの学生も多いので、栄養面でしっかりサポートしていきたい」と語る。

おなじみの一階の学食も四月から「ユーズキッチン」(㈱魚国総本社)と名前がついた。こちらの魅力は、ボリューム満点の定食と種類豊富な単品メニュー(五十円〜)。たこ焼きやコロッケなど毎日約十種類以上あり、中でも人気の揚げだし豆腐(百円)は売り切れになるほどだという。

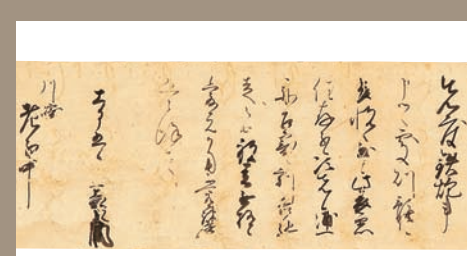
充実した学生生活を送るためにも重要な〝食生活〟。学生も作り手も笑顔の絶えない二つの学生食堂は、これからも学生たちをしっかりとサポートしていくだろう。

正午を過ぎて賑わう「ユーズキッチン」(上)。「い〜菜食堂」には、カレーやパンのセットもあり、女性に人気だ(下)。

皇學館ミュージアム

戦国時代の古文書

せんごくじだいのこもんじょ



縦16.0センチ×横56.2センチ

本学国史学科が平成十九年度に購入した戦国時代の古文書。天正元年(一五七三)、織田信長は伊勢長島一向一揆平定のため、伊勢国司北畠家を介して、伊勢大湊に出船要請を行ったが、その際、伊勢河崎に対しても「要害船一艘」を楠浦まで出船させるよう命じたことが知られている。内容的に符合する本文書は、天正元年のものと考えて間違いあるまい。本文書の差出人滝川一益は、織田信長に仕えて、主に伊勢方面で活躍した武将。北畠攻めや長島攻めの主力となり、長島一揆壊滅後には長島城主となった。本文書によれば一益は、河崎老分中(中世河崎の自治組織)から鉄砲を借りており、戦国期における河崎が、あたかも同時期における泉州堺の如き、武装可能な「自治都市」であったことを物語っている。伊勢の中世史を語る上でも、きわめて貴重な史料と言えよう。

武装可能な自治都市であった河崎

翻刻

先度鉄砲事
申候之處、則預借□
喜悦之至ニ候、此表悉
任存分候、次先日浦一
舟召寄候刻、各馳
走之由、祝着無極候、
爰元御用不可有疎遠候、
恐々謹言
十一月五日　一益(花押)
川崎
老分中

皇學館大学　オープンキャンパス
こころ小路ツアー2010

6月13日(日)
7月18日(日)
8月21日(土)
いずれも 11:00〜16:00
予約不要　参加無料
学校見学会
7月17日(土) 13:00〜16:00

日本のこころに触れる一日
日本の文化・伝統や、各学部・学科の学びを体験できる楽しいイベントを用意しています。

神道学科 なりきり神道教室 神職の装束を着て、作法を体験しよう!
国文学科 いにしえのロマン紀行 短歌や和本の制作体験ができます
国史学科 クイズ!歴史発見 歴史がもっと好きになるクイズ大会
コミュニケーション学科 しゃべり場 先生や先輩と一緒にテーマを決めて話そう!
教育学科 くるくる絵本づくり 大人気のくるくる絵本を作ります
現代日本社会学科 NIPPONを動かそう会議 日本の問題について意見を交換しよう!

※掲載内容は、昨年度のプログラムです。変更する場合がありますので、詳細はHPをご確認ください。

夏休み前の受験対策講座
AO推薦から一般入試まで、最新の入試情報を説明します。

参加者全員に「赤本」をプレゼント
受験対策に欠かせない、皇學館大学の「赤本」を差し上げます。

皇學館のオープンキャンパス
「こころ小路」へようこそ。
いろんな未来が咲き始める
紫陽花(あじさい)は初夏の花の代名詞。
私たち日本人は、古くからこの花が
白や青・紫・薄紅へと変化する様子を楽しんできました。
そんな紫陽花が色づき始めると、
今年もオープンキャンパス「こころ小路(こみち)」の季節。
たくさんのイベントに参加し
「あれも学びたい!」「これも面白そう!」なんて、
自分の未来が多彩に変化する様子を楽しんでください。
そう、まるで紫陽花の花のようにね。

日本の原点を知る
皇學館大学
〒516-8555
三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-6316(入学試験課)
E-MAIL nyusi@kogakkan-u.ac.jp
http://www.kogakkan-u.ac.jp
皇学館　検索

モバイル皇学館にアクセス!
機種によっては、読み取れない場合があります。
http://m-kogakkan.com

こころ小路にご参加いただいた高校生に、先輩から小さな、そしてとっても元気になるプレゼントがあります。お楽しみに!